

H-01 森林の荒廃防止・里山保全の取組

人々の暮らしの変化とともに、森林との関わりが希薄となり、手入れが不足した森林の荒廃が懸念される状況となっている。

たとえば、宮原地区の休山中腹に分布する「里山」でも、時代の流れとともに存在を忘れ去られ、樹木は伸び放題で立ち入ることもできない状況となり、荒廃が加速している。

また、同地区内の遊休地にある樹木も年々巨大化し、地域住民は枯れ葉等の処理に苦慮するほか、暴風による倒壊の危険にさいなまれている。

これらの巨木を伐採するには重機等の大型車両が必要なため膨大な経費がかかるし、そもそも物理的な問題として重機で進入することができない箇所も多い。

人の手が入りにくく管理や活用が難しい森林の荒廃が進めば、環境への悪化や山地災害を引き起こすことも考えられる。これらの問題に対してデジタル技術を活用することで、昔のような美しい自然を再生することはできないだろうか。

H-02

循環型社会の形成に向けたごみの減量化
～ごみ分別の徹底と食品ロス削減の推進～

現在、呉市におけるごみの総排出量は人口の減少に伴い減少しているものの、一人当たりのごみ排出量は横ばいで推移しており、資源のリサイクル率も低下の傾向にある。

リデュース、リユース、リサイクルの3つのRに取り組み、ごみの焼却や埋立処分による環境への悪い影響を極力減らし、限りある地球の資源を有効に繰り返し使う社会(=循環型社会)を形成していくため、住民のごみ分別の意識を高めたい。

また、食品ロス(手つかず食品や食べ残し等、まだ食べられるのに捨てられてしまう食品)を削減することも、家庭から出るごみの減量化に向け解決したい課題の一つである。

デジタル技術を活用し、これらの課題を解決することができないか研究していきたい。

【目標】

- ・一般廃棄物のリサイクル率15.3%(R元年度実績:14.0%)
- ・一人1日当たりのごみ排出量930g(R元年度実績:962g)